



緊急出版

淡水魚の放射能

川と湖の魚たちにいま何が起きているのか

第1部ではチェルノブイリ事故をはじめ、世界の知られざる淡水魚の放射能汚染をくわしく掘り起こします。第2部では福島第一原発の重大事故により、いま日本の川と湖の魚たちに起きている放射能汚染の実態を見つめ、汚染の仕組みを考えます。そしてこれからの汚染の行方を予測します。私たちが選ぶべき暮らしの有り様がそこに見えてきます。

書き下ろし・類書なし

選ぶべき未来は森と川と魚たちが教えてくれる。

著=水口憲哉

福島第一原発事故・国会事故調査委員会参考人
東京海洋大学名誉教授

雲の移動との関係で、標高が高いほどより多くセシウムが沈積している。その濃度とイワナの汚染度が一致している。ヤマメ、アユ、ウグイにも汚染には一定の傾向がある。

2012年3月飯舘村新田川ヤマメから18700ベクレル/キログラム。これは1986年9月チェルノブイリ事故後のノルウェーのブラウントラウトの12500ベクレル/キログラムを超えている。

チェルノブイリ、核実験、原発廃水、福島原発事故で、川と湖の魚になにが起こったか。汚染はいつまで続くのか。

アユ、イワナ、ヤマメ、マス類、ウグイ、ワカサギ…。ふるさとの魚たちの放射能汚染の実態とは？



フライの雑誌社